

あれも……これも……

加茂嘉久 権利委員長

あつという間の二年間でした。あれこれやりた
い事、言いたい事を頭一杯につめ込んで、それだ
けに、駆け出したような想いで過してきまし
た。しかし、光陰はもつと素早く、指の間をすり抜
けて行ってしまいました。ある時はせっかちに、
ある時はお目だるく見えたことでしょうか。ともか
く第一期権利委員会は、程なくその任期を終えま
す。個人差がありますが、製作カードの書式は、
もうひとつ定着しきれませんでした。アンケート
も、皆さんの御協力で第二回までは進めることが
できましたが、最も重要な、生活・福利厚生のア
ンケートが未完のままです。後事は、貧しい二年
間の成果をふくらませて下さるに違いない、第二
期委員の御厄介になります。

閑話休題。退場前の繰り言はこれくらいにして、
まず第二回アンケートの結果を御報告しなければ
なりません。アンケート用紙発送総数六十通。う
ち、返信数三十二通（五十三パーセント）。二
十八通（四十六・六パーセント）が未回答です。し
て、その結果は？まだ、集計できていないのです。
設問数が多いうえ、三分野に分かれ、それもダブ
ル回答や、回答不能も考えられる質問になりました
ので、目と手だけの集計では無理だろう、と佐
藤忠さんにコンピュータ処理をお願いしたのです。
結果、コンピュータ故障、改めて人力集計という、

急がば廻れの見本のようなお粗末をしでかしてい
ます。十一月末日までには何とかなるのですが、
それでは会報の締切りに間に合いません。今回の
集計は、十二月中旬までに「まとめ」をつくり、
一月中旬に印刷。二月の総会には間に合います。
二十四ページくらいの小冊子にして、会報別冊と
するか、できれば全文を会報に刷り込んで、お手
許へと考えています。申し訳ありません。

*

十一月十四日、権利委員会はシンポジウムをや
りました。この御報告をしなければなりません。
委員会内部だけで、シコシコやっても駄目だ。
全会員のフリートークキングの中から、権利問題を
汲みあげていかなければ、本場の問題提起にはな
り得ない、という大義名分もさることながら、ま
ず大川先生を全会員に御紹介する席を設けねば、
と考えました。その為には、皆さんの出席意欲を
そそのかす立をしなければなりません。魅力的
なゲストを呼ぶこと、それと、ちよつと間違くな
っている飲み会も、それをワンセットにして会員
の出席を促したい。そして会員外の方々とも、お
目にかかれるように、とまあ、すごい欲張りなこ
とを考えたわけです。そして、権利委員会は全員、
人寄せパンダならぬ、客寄せバニーガールになろ
う、と血盟を固めたのでした。

大川先生には、何に、どう関心を持たなきゃい
けないか、をお話し頂くとして対談者の人選にハ
タと行きづまりました。最近、本を出した女優の
Aさんはどうだろう。それより、高名な腋毛女優
のBさんはどうだ？などと思案の末、川村康一さ
んのお友達で「菊とバット」の評論家、ロバート・
ホワイティングさんが、ビールを飲みながらでよ
ければ、とO・Kしてくれました。お客様として
は、賛助法人の方もお誘いしたり、会友みたいな
立場でお世話になっている、F・Dの方なんかも
お招きして、とハガジン連絡したのですが、十一
月初め現在で、出席の返事は十六名。これではバ
ーティどころか、会場費も出ない、と電話作戦を
開始。十日までには二十五名の出席をとりつけま
した。

当日は、まず大川先生とホワイティングさんの
自己紹介から始められました。司会は、協会一の
進行上手、広瀬さんを除いては考えられません。
著作権の過去と現状説明に、時間がとられ過ぎま
したが、ホワイティング氏から、売上部数印税制
というアメリカ方式で著書を出されたこと。しか
し日本では正確な部数をフォローする方法が皆無
なため、十部売れた本の印税を一万部しか受け
とっていないとの報告は、身につまされました。
因みに、アメリカ合衆国憲法には、著作権条項が、

あつたり、にぎやかに進行しましたが、会員の川
畑さんは、素朴な疑問シリーズを展開、満場爆笑、
そして大納得しました。リョービのアステ編集長、
加藤常務にも励まされて、談話風発の二時間は、
大変盛り上がりしました。名司会に感謝、感謝。
席を移してのパーティーは古谷委員の司会で、午
後七時から始まりました。三十名の出席で、予算
的にもちよつと安心。大川先生とホワイティング
さんに、お車代をお渡ししましたが、大川先生は
その場でカンパします、との御申し出、有り難く
お受けしてしまいました。それと、新しく入会
されたイラストレーターの山本晋平さんから金の
水引きの御祝儀袋。中を拝見すると、一金三万円
也。これも有難く御受けして、お料理の追加十人
前。

前評判の高かった権利委員のバニーボーイは、

竹右衛門委員の担当です。上から下まで揃えるに
は予算不足なので、耳とシッポだけの兎さん。し
かし、会員の中でも特に地味好みの権利委員がつ
けると兎の老人ホームみたいになったのは、ま仕
方ないか。シミジミ若い力の不足を嘆くのみです。
来賓として、リョービの加藤美方さん、特種製
紙、研究所の松尾茂俊さん、F・Dの山本孝造さ
んの御挨拶を頂いて、何とか面目を保つことがで
きました。お酒、料理とも、ほぼ平らげた九時過
ぎ、道吉代表のシメくくりでお開きになりました
が、当日の収支は会場費二万円の穴があき、経理
委員篠原さんのお世話になってしまいました。
メトロ会館近くの二次会場、魚政へ流れた人、
ごきげんで家路につかれた方、有難うございまし
た。



第一回シンポジウム会場・1987・11・14



黒木 香
フルーツ白書



サラダ 記念日
俵万智

装幀=菊地信義・写真=田村邦男

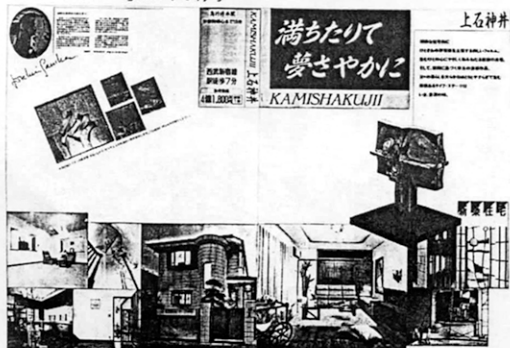
装幀=吉本栄二・写真=鈴木邦弘

●シンポジウムの会場に二冊の本が並ん
でいました。「サラダ記念日」(俵万智著
菊地信義装幀 河出書房新社刊)と、「フ
ルーツ白書」(黒木香著 吉本栄二装幀
K・Kベストセラーズ刊)。二冊は一卵性
双生児のようです。会員諸氏も呆れかえ
っていましたが、大川先生によれば、部
分的に変えたところもあるが明らかにベ
ストセラー本と見紛うように意図され、
アイデアを盗んだと思われるも仕方な
いデザイン、ということになります。こ
の事例について、版元の見解を聞いて見
ますと、K・Kベストセラーズは、河出
書房の元社員の会社で、身内のような意
識があり、企画編集サイドからは何のア
ピールもなし、営業サイドにまかせてあ
る、ということです。会社対会社は、そ
れで済むでしょうが、デザイナー個人
の見解はどうでしょう。菊地さんとの接
触には成功していませんが、版元同志の

かばい合いが優先すると、やり得に終る
ようです。
●もう一例は、古谷さんの持ち込まれた
ケースです。日経マگزローヒルの「につ
けいでさいん」誌の表紙がそっくり不動
産折込チラシに盗用された件。結局日経
側の常務と編集長が、広告製作会社から
の詫言状を受けとること、これ以上追
求するひつようなし、と判断されて終っ
ています。ここでも両社のデザイナー個
人の見解と処遇は闇の中です。
●手のほどしうがないのは、西武タ
イム発行の「Money」誌。アメリカ
に莫大な版権料を払って日本語版が作ら
れていますが、広瀬さんの作った表紙・
本文そっくり、台湾版が発行されてい
ます。違うところは銭という文字が入っ
ている部分だけ。でも台湾は著作権条約
に加入していないので、何の拘束もでき
ません。残念。



「につけいでさいん」1987年8月号



「上石神井南町の折込広告」

